

短歌

くにさき 六郷満山

佐伯合同短歌会

会員 鶴 本 幸 子

先日、国東の仏教文化を訪ねての楽しい旅行に御一緒させていただいて、本当に有難うございました。思いがけないお蔭に、心湧き立ってお供をしましたが見るもの、聞くもの、すべて感深く心に沁みて残りました。

むつかしい史跡のことは、門外漢のお友には判りませんが、くにさきの紅葉や黄葉に埋れて美しい景観は、まだ目で見えるようです。

道端の草に埋れて立つ板碑や、野の仏たちにも秋の陽がしみて、庶民信仰の一途を祈りを感じました。

文殊仙寺の秘境のような景観、樹海の中に、蕪在の祈りにも似た炎の紅葉は、山岳修験の象徴のように思えました。

おかげで沢山の歌が詠めました。表現力の拙さで、思うこと、感動したこと、半分も伝えることが出来ず、惜しい思いをしております。記録的な報告歌にしか出来ませんでした。御批評下さいまし。

今日、佐伯史談の九十七号とどけていたたきました。お心遣いありがとうございます。

またこの機会がございましたら、御一緒させて下さいませ。(下略)

迎^か接^ら羅^{えん}炎 光背にして不動明王岩座に立てり怒るすかたに
(真木大堂)

積まれたる小石一つにも祈りしか庚申塔はかたむきて立つ

極^まの水の一本彫^{いざやく}りの阿弥陀さま目を伏せしかと吾を見給ふ
(富貴寺)

風もなきまひる富貴寺の石段に落ちて踏まるる銀杏あまた

彩色のさだかならねどもろもろの天然舞ふ見ゆ壁画群像

笛を吹き琵琶かき鳴らす楽人のなかには伏目のやさしき天女像

外陣の長^{なが}柳に描^かれし三千仏剝落のままみ姿のこる

祈りこめて人の刻みたる磨崖仏ただ仰^かぎつつ幽かなる吾れ
(堂の迫磨崖仏)

黒土のお不動さまとしたしまる童顔座像のみ仏います

無動寺の本堂の中ひそやかに薬師まもりて十二神将

彩色さニ度変へてみ仏の華やげど何かさびしき千手観音像

門前の仁王が立ちて怒れども怒りとならぬお頼し
たしも

天台密教いまに伝はる加持祈禱護摩たぐ祭壇意
外は明るし

くにさきの石工刻めるみ仏のひなびてやさし野の
草のなか

この寺に由来ききつつ傍らの男大きく欠伸をした
り

み社の陽石人ら寄り見るに何ためらひて吾はおり
たる (伊美刹屋へ橋社)

香水椿かざして鬼面舞ふ夜の松明の火が見ゆる
ごとしも (岩戸寺)

しゃくなげの原生林続く丘に沿ひ横穴古墳バスに
見て過ぐ

幽かにも息づくごとし岩室の中おぼろに在せり役の行
者像 (文珠仙寺)

境内より小門山望む一隅に空篋印塔輝やきて文
つ

智慧と慈悲の菩薩在せり登り来て文珠仙寺に響口
鳴らす

護摩をたく火ほろの祈り思はする樹海の中に味きもみ
じ葉

牛に乗りて仁聞菩薩開きたまひし仏の里分六郷満
山

庶民信仰の祈り一途に滅びざる仏を石に刻みし
ものか

刈り終へし稲田にもみから焼く煙り見つつ帰りの
バスにゆるるる

旅行記

金山出石寺に参詣して

佐伯市青山・黒沢

會員山崎 作 一

私は毎年十二月に、年詣りに、四回愛媛県喜多郡長浜
町にある、金山出石寺(きんざんしゅつせきじ)に参拝しており
ます。本尊は觀世音菩薩であります。私は元來自分の家
に本尊観音様をお祀りしている関係で、若い時から観音
様の信者であります。その上、幸いなことには、私の部
落三十戸に、御出石(みでしつ)へ出石寺)の講参りがあり、毎年
三名づつ春の四月に参拝して、家内安全と、とくに疫病